

建主の
要望

Nさんの家 東京都 ●設計／田口知子
●家族構成／夫41歳 妻40歳 長男9歳 長女6歳
企画協力：OZONE家づくりサポート

今回3人の建築家にプランを提案してもらったNさんは、妻の両親の敷地に親世帯と自分たちの家を建てて住んでいる。両親の家は20数年前に建て替えているが、Nさんの住まいは老朽化して使い勝手が悪く、日当たりもよくない。現状よりも広く明るい家になるなら建て替えたいが、それが果たして可能なのか？ 敷地の分割方法も含めて、N邸が最大限のスペースを確保できる提案プランを希望している。



両親の敷地に立つ
住まいを建て替えて、
より広く明るい家になりたい



B 案

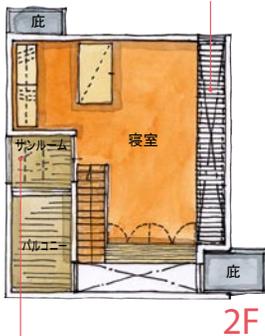
40代男性+女性建築家

半地下のLDKで親子間のプライバシーを確保

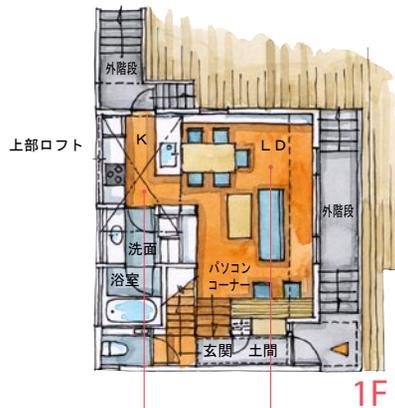
この提案プランの方針は、両親とNさんがつかず離れずの関係で適度なプライバシーを保てること、そして配置や日照面で両親の家に配慮することだった。そのためN邸では半地下レベルに1階を設定。建物の高さを抑えて両親の家の採光が現状よりも損なわれないようにし、北側斜線もクリア。また、N邸の床レベルを下げることで、両親の家から子世帯の住まいが丸見えになるのを避け、親世帯が縁側に座っているときには、アイコンタクトができる位置に窓を設けている。

将来、もし隣地を購入した場合は、子ども室や趣味の部屋、客間などを増築することも可能だ。

トップライトからの南光を1階LDKに届ける格子状の吹き抜け。お互いに上下階の気配も感じられる

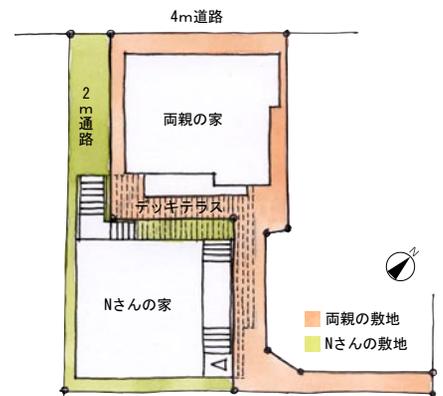


「毎日洗濯して布団を干したい」という要望をかなえるサンルーム。花粉の時期や突如の雨にも安心



キッチンは両親の台所から最短距離に置き、「おすそ分け」などのコミュニケーションを取りやすとした

両親の家との間に高低差を設けてプライバシーを守ったリビング。東側の大型窓から明るい光が入る

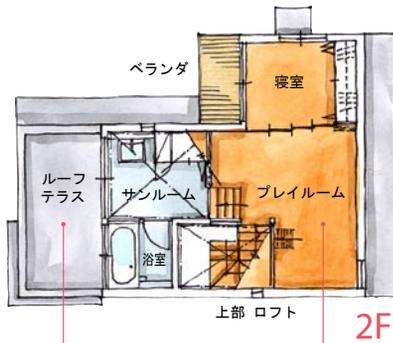


敷地の分割案

この建築家は将来、南東側隣家の敷地を購入する可能性を踏まえて提案。両親の家に圧迫感を与えないように、N邸との距離を現状に近い状態にし、共用のデッキテラスで行き来できる「つかず離れず」の関係を考えた。安定した光を確保するため、東側にも空地を確保している

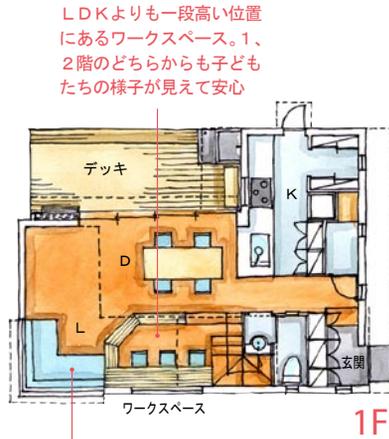
両親の家に向かって開いた中庭一体の家

四方を隣家に囲まれている場合、採光面などから2階リビングを選ぶことが多い。しかし、この建築家はLDKが家族の集まる場所であり、両親や友人との交流の場になることを考えて1階に配置。空地がとりやすいL型プランによって親子共用の中庭に光庭の役割を持たせ、4mの全面開口により、LDKとデッキ、中庭がひと続きになった開放的な住まいを提案している。LDKの高い天井を利用してパソコンや勉強ができるワークスペースを立体的に組み込み、家全体と中庭をゆったりと眺められるソファを造り付けた。



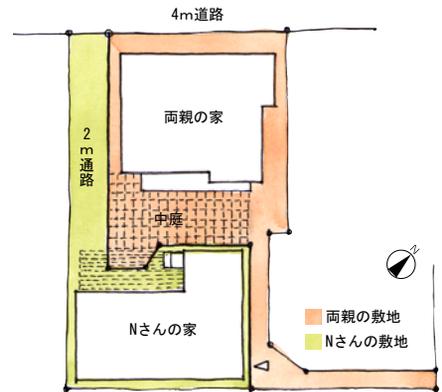
家族4人の洗濯物が干せて日当たり・眺望は抜群。隣のサンルーム、浴室を明るく開放的な空間にしている

将来は子ども室にもなるロフト付きスペース。引き戸を開け放せば、寝室と一体で広々と使える



LDKよりも一段高い位置にあるワークスペース。1、2階のどちらからも子どもたちの様子が見えて安心

ソファを造り付けて部屋を広く見せたりリビング。コーナー窓を通して南側空地に視線が抜け、光も差し込む



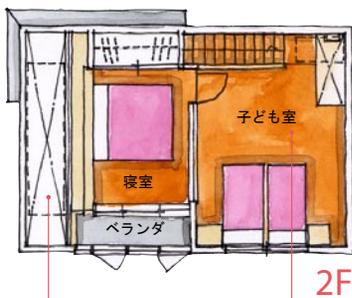
敷地の分割案

分割案では3案とも既存の両親の家、建て替えるNさんの家の両方が、規定の建ぺい率・容積率をクリアすることを原則としている。A案ではN邸をL字型の建物にし、2棟の間に設けた共用の中庭を緑あふれる陽だまりの空間にすることで、両方の家の採光を確保した

共用庭とつながる土間を設けたスキップフロア

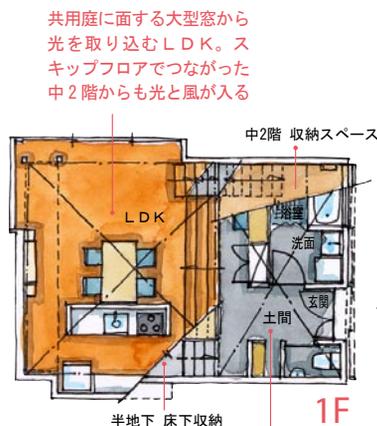
C案では両親とN邸との間に食事やパーティができる共用庭を設けているが、デッキなどのスタイルにしなかったのは、予算面を考慮した結果だという。

プランは5つのフロアがひと続きになったスキップフロア。そのうち半地下と中2階の収納スペースは人が立えない天井高に抑え、要望だった十分な収納量を確保している。また、1階土間は土足のまま出入りできるので、共用庭で食事をするにも準備がしやすい。このフロアには勉強コーナーもあり、数段上にあるLDKと一体空間になっている。



斜め天井の壁際は大人が立っていない高さ。そこで、トップライトの光を1階LDKまで届ける吹き抜けに利用

将来2部屋に分けられる子ども室。コーナーの小さな吹き抜けを通じて、階下のLDKの空気が伝わる



共用庭に面する大型窓から光を取り込むLDK。スキップフロアでつながった中2階からも光と風が入る

靴のまま出入りできる土間は、共用庭に行き来しやすい。遊んで泥んこになった子どもも浴室へ直行



敷地の分割案

建て替えのN邸は、北側斜線をクリアする必要があった。長方形のプランは崩れにくかったため、南側の角に寄せ、敷地の北側を斜めにカットして対応。2棟の間には食事やパーティスペースに利用できる共用庭を設けている



両親の住まいとリビングをつなぐ中庭は、子どもたちに人気の遊び場



選ばれたのは A案の 田口知子さん

1966年広島生まれ。1999年に田口知子建築設計事務所を設立。「家をつくることは、その場所、住む人に対して、建築家のアイデアが合わさって、世界でたった一つの特別な場所をデザインすることです。新しい出会いから生まれるコラボレーションに、とても大きな喜びを感じています」



上ノ地元のサッカーチームに所属する長男の作品。玄関脇のニッチに飾られている左ノ中庭に向かって大きく開かれたLDK。幅4mの建具をフルオープンにすれば内外が一つになり、LDKそのものがデッキと連続したアウトドアリビングに変わる。向かいノ両親の家で、左端は前面道路への通路を兼ねた駐車場下ノ中庭にはシンボルツリーのヤマボウシを植え、石を敷き詰めて気持ちいい居場所に





縁側のような気安さがある
中庭と一体の
オープンなLDK

「こんにちは!」。元気な声が出たかと思うと、学校から帰って来たNさんの長男と友達が中庭でサッカーの練習を始めた。「玄関はあるけれど、知り合いはみんな中庭からやってきますね」と妻は笑う。旗竿状敷地のため奥まった中庭は道路から見えにくく、外界から守られた広場のようで居心地がいい。子どもたちは帰りがけに向かいに住む祖父母に挨拶をし、両親も庭いじりをしながら、家族とのやりとりを楽しんでいる様子だ。

建築家コンペでは、田口知子さんの提案が夫妻には新鮮だったという。新築するN邸をL字型プランにして空地をつくり、両親の家との間に陽だまりの庭をつくる。そしてLDKの窓を全開すれば住まいと中庭がつながり、その先の道路へ視線が抜けて気持ちいい。

だが、数字の上では以前の住まいと床面積に大きな違いはないらしい。「四方を家に囲まれた敷地でも、視線が抜けるポイントを探して遠くまで見通せるようにすれば、より広がり生まれます」(田口さん)。また、食事やくつろぐ場所、勉強する場所を、床レベルを変えながらひと続きの大きな空間にしているのも、広々と感じられる大きな理由だろう。



N邸は道路から奥まった場所
にあり、向かいの両親の家に
守られていることから、全面
開口の開放的な住まいが実現
した。右奥はソファを造り付
けたリビング。南側のコー
ナー窓から直射光が入り、視
線も抜けて広がりが生まれ
る。正面奥の低い壁で囲まれ
た部分はワークスペース

Information

建築家コンペ って何?

建築家コンペとは、複数の建築家にそれぞれの個性を生かしたプランを出してもらい、その中から自分にとってベストの建築家(設計者)を決める方法です。「OZONE家づくりサポート」には、建築家コンペのできる「建築家コース」のほか、工務店、ハウスメーカーのコースもあります。いずれも家づくり計画の整理から、依頼先の選定、契約・設計確認、建物の完成確認までを、建築家や工事会社のペースではなく、建主が最後まで自分のイメージどおりの家づくりができるよう、第三者の立場からサポートしてもらえます。

問い合わせ/
〒163-1062
東京都新宿区西新宿3-7-1
(株)リビング・デザインセンター
住宅ソリューション部
<http://www.iesapo.jp>
☎03-5322-6518
10:30~19:00 水曜休館

Data

- 敷地面積/89.12㎡(27.01坪)
- 延床面積/70.36㎡(21.32坪)
- 1階/41.32㎡(12.52坪)
- 2階/29.04㎡(8.80坪)
- 用途地域/第1種低層住居専用地域
- 建ぺい率/50%
- 容積率/80%
- 構造/木造軸組工法
- 建築コーディネイト/OZONE家づくりサポート
- ☎03-5322-6518
- 設計/田口知子
(田口知子建築設計事務所)
〒141-0022
東京都品川区東五反田5-22-5-214
- ☎03-5447-2420
- 施工/小山工務店
- ☎042-491-1043
- 竣工/2008年6月

撮影/大槻 茂 取材・文/安藤陽子
図面/瀬島秀朗



上ノガスコンロを壁で隠し、
シンク周りをダイニングと対
面させたキッチン。外で食事
をする時は、ガスコンロ前
の窓から食器などを手渡し
する左ノ正面奥のリビング
の壁にはアクセントカラー
のオレンジを選んで温かな
雰囲気に見下ろせるロフト
付きの2階プレールーム。
奥の寝室のベランダでは、
毎日布団が干せる下ノ日
当たりのいいルーフトラス
に面した面したサンルーム
と浴室。室内干しもできる



階段の途中に配置したワークスペースは、キッチンからも目が届いて安心。撮影には長男の友人にも参加してもらった。段差をつけてそれぞれの居場所を分ける立体的な構成は、住まいの一体感を保ちながら空間に変化と広がりをつくり出す

LDKにいる家族と話しながら宿題ができるワークスペース

